四月九日　木曜日　　食べ寝するだけの人形の様だ

起床八時半。
下着を全部着替えた。
今日は身体検査だ。

めしを食い、すぐ家を飛び出す。
雨がざあざあ降って陰気である。

机の中から本を見つけたと言って、
友達が鉄腕アトムのマンガを読んでいる。

それを僕は、「どこにどこにあったのや。」とか
なんとか言って、自分の手におさめて、
教室の前の先生用の椅子に、寝台いすの様に、
体を寝かせて、マンガを読む。

ひさしぶりに見る、鉄腕アトムのマンガである。
「しかし、字が多いなあ。」

「マンガは見る為にあり」と言って、
ポイと他の連中に渡そうとしたが、やっぱり、やめて、
「小さい自分に読んだ時はおもしろかったが、
今読むと、何や、つまらんものやなあ。」
と、ひとり、つぶやきながらも、熱心に読む。
そばで、勝部が、「ほな、やめとけや、俺が読む」と
井内と一緒に言うが、やはり、何となく、
手放す気持ちにはなれない。

100 食べ寝するだけの人形の様だ・・・・・・・・446

Candy
in the Heart
446

萩原良昭